とかち新聞
主筆　松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月300円　1カ年前約3,000円

藤田氏と門脇氏の対決？

明年の本別町長選　水元氏が勇退の場合

明年五月で任期満了によつておこわれる本別町長選挙への動きは、いまのところ暗中模索ともいうべき状態で表面化はしていませんが、しかしあと十カ月後に迫つた問題だけにその底にはかつての〝紛争の町〟の名残りは尾を引いているようで、前回（四十九年）のように円満に無競争というわけにはいかないようです。

水元氏の健康問題が―

連続三期の新記録をなしとげ、行財政を建て直して県案の懸事業を片づけた水元町長は、明年の勇退は信しまれながらの〝花道〟とみられる反面、華たる後継者もないままに放り出されてはあとが困るし、水元氏の健康状態といつても大所高所から町行政の超部まで把握していて約二百名の職員を動かしていけるから心配はなく、しつかりしたあとがまできるまでもう一期でも半期でも―といつた声も出ているようです。

これに対して水元氏は持論である「町長というものは三期が限度であり、後継者云々は私的なものではなく、町民自体が決めべきことだ」としており、依然として意欲的な原則論に立つてます。

しかし、支持者側にすればこれまで水元氏は三回とも自分から町長選に打つて出るというのでなく、支持者側がすべて無競立をして三選までに支援したので、水元氏の持論はわかるが四選、五選の町長はザラにあり、特に本資製材工場をめぐつての裁判は町長が被告元氏が原告として当事者であり、この裁判が明年五月の任期までに結着がつきそうにもない見通しから、これらを解決する責任上からも四選出馬を望む声も出ています。

このために水元氏は健康上の問題をハッキリさせるために、目下お医者さんで精密検査をうけており、その結果は九月にならなければわからないそうですが、選に立ち向うものとすれば思い部分の膿を切除しなければならないそうで、そなにムリをしてまで―とりのが現在のもようです。

どうなる後継者

もし水元氏が持論として出馬辞退上からも三選で勇退することになれば、あとはどうなるだろうかということですが、だれしもその一番手とみられているのは長谷川義信氏で、水元氏三期の選挙責任者で、議員歴も充分で政治力のある活動家で中央へ向つても押しのきく実力者ですが、水元氏がこれまでの支持層へ「長谷川氏を推む」となれば別として、長谷川氏には自民党支部や地区労にも異議がおることが難点となつているようです。

二番手にあげられているのは町議会議長の古川勝一氏で、むしろ水元氏の陣中の人ともいわれていますが当の本人は「見はその線ではない」と強力このはなしには乗つてきませんが、地盤の堅実という点からも本人がその気になれば地区労、農民団体などの推薦はうけ易く本元町政の後継者らしい体制が布かれそうですが、農民層の一部では農協の組合長にもなれない人がという見方もあり、中小業者のうけを心配する向もあります。

それやこれやの関係から三番手に浮かんでいるものが庁内ナンバー・ツーの藤田高次助役で、いくら議員で長く町政にタッヲしていたところで、零細業決機関と行政執行機関とは別のもので、モチはモチ屋で行政事務でタタキあげた人の方が適難だということになりますが、本人は「頼んでもないはなし」だとしています。

というのは、藤田氏は経営畑を専門につとめてきて行政を殺にうといところへもつてきて、庁内では先輩の木村栄収入役や門脇総務課長を飛び越えての助役就任が異例のバラツキだつたうえに、助役を二年そこそこで町長の席への三段飛びには問題つています。

しかし、反水元陣営では門脇氏擁立の動きをみせています。（以下は裏面へ）

三町消防演習を顧みて

三町消防の演習は各町とも平素の訓練の成果を発揮され、まことに何れも立派であり町民の信頼と負託に応え得るものと思われ感謝の念を捧げたい。

私は、この機会を捧げて、三町町民の関心喚起の問題と、団員確保の問題と後援会のあり方について述べ三町町民の与論に訴えてみたいと思う。

①一般町民の関心喚起について―

消防署員、特に団員は、一朝有事のときは、町民の生命財産を生命を賭して守る最も崇高な使命団体組織である。

各町演習、隊列行進、模擬火災消習等、町民周知の行事に対して一般町民の関心のいかに薄いことか、一体町民は何と考えているのだろうか、演習日は町民の行事ではないというのだろうか、演習日は日曜日であるためジャンターを深く閉ざした町には人影もない。

PRにも問題はあろうが歩くの町民が来観して拍手喝采をおくるぐらいの関心と感謝の気持があつて然るべきではなかろうか、三町町民の自覚と奮起を促してやまない。

②団員確保への新提案―

各消防団とも優秀な若手団員の補充は、頭痛の種であろう、私はその人的対策として町民の直接の奉仕者である各町の優秀な若手役場職員の起用に着目すべきであると思うが三町町民各位はどうお考えになるか。

地方公務員に団員兼職禁止の分限法令はないのである、一朝有事は平時に何度もあるものではない、職員は町民である、民間人の団員は、それこそ毎日仕事時が生活がかかる仕事で配置されているのが普通である、行政事務のペンの多忙の比ではなかろう、それにもかかわらず民間人のみが多大の自己犠牲を払つて日夜予消防活動に奉仕しているのである。

住民サービスに直接責任をもつ各町職員こそ自らふるつて団員に加わるべきであり、各町長も少くとも二番位の団員を部下職員から選抜してこれにあてる説得と努力と、それにも増して勇気を持つべきではなかろうか、さすれば町民の見直しも始かしいものとなることを断言する。

③後援会に対する希望―

後援会は、消防、火災等の都度、団員の勇敢な奉仕心を叫いておられまことにご苦労であり感謝にたえない、しかし、最も大事なことは町民に対する啓発、演習時にいかにして多くの町民を参加激励させるかーそしてこのことを通じて予消防に対する町民の意識と感謝の気持を深めてもらうかーの活動組織であつてほしいものと思う。

予めビラを配り（府県の仕事でもあるが）当日は宣伝カーをくり出し、当日多くの参加町民が出かけるように働きかけることこそ団員の士気を益々高めるゆえんではなかろうか、団員には始きと意識は許されない、町民が『昨年と同じき』といつて無関心が許されてよいものだろうか、予消防は団員だけのものではない町民総参加のものであるべきであろう。

（恵北三町消防事務組合議会議員　西野一郎）（勝別町）

読者の室（投書欄）

暑中お見舞申しあげます

本別町

町長　水元孝夫
助役　藤田高志
収入役　剣持好蔵
総務課長　数藤　肇
税務課長　鈴木信治
産業課長　中川末五郎
福祉課長　大沼　清
保健衛生課長　椿原安夫
税務課長　新津茂樹
管財課長　川村　優
水道課長　鎌田一平
保育所長　吉田光雄
老人ホーム所長　井出利明

足寄町

町長　小林弘道
助役　宮田秋雄
収入役　鷲岡憲雄
総務課長　木村重雄
企画課長　山本豊吉
管財課長　山岡信一
民生課長　杉本　太
産業課長　原　守郎
税務課長　品川昭夫
経済課長　土田三郎
議会事務局長　飯田重男
水道課長　横山三郎
厚生支所長　星　昭司
大規模草地育成牧場長　石井　格

陸別町

町長　杉田　稔
助役　徳光孝夫
収入役代理　檜森敬二郎
総務課長　荒木秀夫
企画課長　大橋雪雄
管財課長　五十嵐慶一
民生課長　宮川　寛
農林課長　原田博智
施設課長　加藤康夫

本別町教育委員会

委員長　土蔵　勇
委員　河合悦郎
同　石山美子
同　東条　弥
教育長　水野平八郎

足寄町教育委員会

委員長　新津幸助
同代理　前谷信正
委員　新妻幸雄
同　新海文雄
教育長　谷　忠光
同次長　別宮　進
管理課長　土田　浩
社会教育指導オンブート青年の家所長　江口建一郎
給食センター所長　野中竹男
高等家政学院長　谷口　孝

陸別町教育委員会

委員長　平林英祐
委員　金沢エイ
同　西岡　隆
同　竹岡史展
教育長　佐々木春志
同次長　江下　広

本別町農業委員会

会長　牧田庄二
同代理　石上十一
事務局長　菊地正平

足寄町農業委員会

会長　清水秀雄
同代理　西村啓一
事務局長　大塚昭二

陸別町農業委員会

会長　佐々木茂雄
同代理　飛鷹武夫
事務局長　脇坂弘一

本別町監査委員

渡辺一郎
朝日　明

足寄町監査委員

森西勝夫
香川博意

陸別町監査委員

加藤三治
池尻英治

陸別町国保診療所

所長　和田　円
事務長　大八木信志

足寄町国民健康保険病院

院長　加賀谷秀夫
医長　益本義久
医員　黒木信雄
事務長　丸谷　彰
同次長　野津伸司
婦長　高萩福子

本別町国民健康保険病院

院長（内科）　西根　司
副院長（外科）　高橋壮之祐
産婦人科　野田勝美
内科医員　久田憲雄
事務長　佐藤術二